

ミャンマー国

ミャンマー国
月経教育を通じた
生理用ナプキン普及促進事業
業務完了報告書

平成 29 年 5 月
(2017 年)

独立行政法人
国際協力機構

ユニ・チャーム株式会社

民連
JR
17-042

写真：キックオフミーティング～プロジェクト完了の成果報告



キック・オフミーティング
(中央は、前保健副大臣の Dr. Thein Thein Htay)
2015年7月



月経教育教材内容検討ワークショップ
2015年10月



月経教育教材内容検討ワークショップ
2015年10月



指導者向け月経教育教材活用研修
2016年1月



指導者向け月経教育教材活用研修
2016年1月



タウンシップレベル月経教育活動
2016年6～8月



タウンシップレベル月経教育活動
2016年6~8月



教材修正・全国普及版承認
2017年1月



成果共有会議
MYCARE Unicharm 社橋本社長
2017年2月



成果共有会議
保健スポーツ省公衆衛生局長代行 Dr. Than Win
2017年2月



成果共有会議
(成果共有会議参加者)
2017年2月

目 次

第1章 事業背景と概要.....	1
1-1 背景.....	1
1-2 事業の実施体制.....	2
1-3 事業概要.....	3
1-4 普及対象とする技術（製品、ノウハウ、システム等）.....	3
1-5 実施スケジュール.....	5
第2章 事業実施内容と成果.....	6
2-0 活動概要.....	6
2-1 ミャンマー向けドラフト案作成.....	8
2-2 月経教育ツールコンテンツ検討ワークショップの開催.....	9
2-3 地域限定利用版の教材作成.....	9
2-4 指導者向け月経教育教材活用研修.....	10
2-5 タウンシップレベル月経教育活動実施.....	12
2-6 地域限定利用版の教材活用フィードバック収集.....	17
2-7 全国普及版制作.....	18
2-8 成果共有会議開催.....	20
第3章 本事業の総括.....	23
3-1 事業成果.....	23
3-2 本事業における今後の課題.....	27
3-3 本事業の成果及びアクションプラン.....	27
3-4 本事業の拡大プラン.....	31
第4章 開発課題解決の拡充に向けた今後の展望.....	32
4-1 次期事業の概要.....	32
4-2 今後のビジネス展開.....	34
4-3 開発課題解決の拡充に向けた活動に関する課題とその対応策.....	36

図表リスト

写真 1 Sofy Eva ラインアップ	4
写真 2 店頭に並ぶ“1枚入りの商品”	4
写真 3 教材作成	8
写真 4 ワークショップの様子	9
写真 5 プリテストの様子	10
写真 6 フリップチャート	10
写真 7 指導者向け月経教育教材活用研修	11
写真 8 パンフレット	11
写真 9 試供品の配布	14
写真 10 女子生徒向け月経教育活動	14
写真 11 月経教育活動	14
写真 12 月経教育活動（保護者の様子）	14
写真 13 Khin Cho Cho Pyone 親子	17
写真 14 小冊子変更前後①	18
写真 15 小冊子変更前後②	18
写真 16 小冊子変更前後③	19
写真 17 小冊子変更前後④	19
写真 18 成果共有会議 開会式	21
写真 19 成果共有会議 参加者の様子	21
写真 20 学校販売	35
図 1 はじめてからだ ナビ	3
図 2 月経に対する意識変化の比較	23
図 3 生理用ナプキンに関する知識変化の比較	24
図 4 月経教育に関する生徒の反応	25
図 5 月経教育に対する保護者の反応	25
図 6 月経教育後 保護者の意識変化	26
図 7 月経教育の後 生理用ナプキン未購入理由	31
図 8 次期事業イメージ図	32
図 9 次期事業体制図	34
図 10 生理用ナプキン使用率の予測	34
図 11 生理用ナプキン 学校購買・社会貢献ビジネスモデル、イメージ図	35
表 1 実施スケジュール	5
表 2 月経教育活動の学校数	13
表 3 モニタリング・チェックシート 準備中	15
表 4 モニタリング・チェックシート セッション中	15

第1章 事業背景と概要

1-1 背景

ミャンマー連邦共和国（以下、「ミャンマー」と記す）では、経済開発の担い手となる若者（10～24歳）が全人口の約30%¹を占めているが、未婚の若者、特に女性は自分たちの身体についての情報やサービスにアクセスすることがいまだタブー視されている。自身の身体の変化、月経や妊娠の仕組み等についての知識が不足しており、誤った認識をもってしまう場合もある。ヤンゴン北部のタウンシップで行われた調査によると、調査対象の11歳から19歳までの91名の男女のうち79%が、「月経は健康に害を及ぼす可能性がある」と回答している²。また、ミャンマーで危険な中絶を受ける人の割合は、15～19歳が最も多いという報告もある³。ミャンマー国政府も思春期保健への取り組みを重要視しているが、10代前半の女子生徒を対象とした思春期教育のモデルがまだ国内には存在していない。さらに、保健に関する情報・サービスへのアクセスの差は、都市部・地方部の間で大きく、生理用ナプキンの使用率が、都市部では9割近くに上がる一方、地方部では普及率が3割にとどまっている状況にも現れている。

本事業において提案する「月経教育」と「生理用ナプキンの試供品配布」は、女性が自身の生涯にわたるリプロダクティブ・ヘルスについて客観的に知るための最初の入り口となる女子生徒を対象とした新しい教育の機会をミャンマー国内に創出するものである。「月経教育」を通じて、女子生徒が自分たちの成長に伴う身体の変化を肯定的に受け止め、自分の身体を清潔に保つ方法を身につけることで、月経期間中も快適に過ごすことができる。弊社の調査では、生理用ナプキンを使用することで、より活発に過ごせると女子生徒が感じるのは8割、経血もれトラブルの減少は6割の女子生徒に実感される。また、JICA BOP ビジネス連携促進「インド国農村部への月経対処品普及事業準備調査」を通し、2013年1～6月に展開したインドハリヤナ州における月経教育では、教育実施前後で、生理用ナプキンの使用率は45%から65%に向上した。教育受講者からは、「今までは生理について分からなかったが、考えるようになった。前もって知識があると、学校に行くのに準備ができて安心だ。」「講義はとてもよい内容で情報量も多く、ためになった。生理用ナプキンの必要性を実感し、使ってみたいと思った。」という感想が聞かれた。

今回、実施した事業は、自らの身体を知り、どうコントロールしていくかを身につけ、それは将来の妊娠・出産の仕組みについて正しく理解し、自らの行動について選択をする力をつけていく基盤を作るものである。これは、女性のエンパワーメントの根幹に当たり、女性の社会進出や経済的参画を後押しする。さらには今後3年間で、生理用ナプキンの使用率を5%高めることで、金額で90億Kyat（約74,934,000円、JICA外貨換算レート表2017年5月参照）の市場規模を創出できる可能性がある。

¹ Country Programme Action Plan (2012 - 2015) Between the Government of the Republic of the Union of Myanmar and the UNFPA, Dec. 2011

² “Do parents and adolescents talk about reproductive health? Myanmar adolescents’ perspective,” South East Asia Journal of Public Health, 2011

³ Country Report on 2007 Fertility and Reproductive Health Survey, Ministry of Immigration and Population, Department of Population, UNFPA, 2009

1-2 事業の実施体制

1-2-1 事業期間

2015年7月～2017年6月（24ヶ月）

1-2-2 本事業担当者

弊社より3名が、プロジェクト総括、月経教育教材監修、ミャンマーでの商材普及促進担当として従事した。外部人材としては、ミャンマーで特にリプロダクティブ・ヘルスの健康教育分野で活動実績のある公益財団法人ジョイセフ（以下、「ジョイセフ」と記す）より、本部所属職員5名・現地事務所3名の合計8名が従事した。

氏名	担当業務	所属先
原 潤子※1/ 野元 世界※2	プロジェクト統括	ユニ・チャーム株式会社
廣岡直枝/須田智美/ 住田美生	月経教育教材監修	ユニ・チャーム株式会社
西岡 泰尚	現地商材普及促進	MYCARE Unicharm.Co.,Ltd (以下、「MYCARE Unicharm」と記す)
西田 良子	教材制作・活用シニア専門家	ジョイセフ
浅村 里紗	教材制作・ 活用プログラム・マネージャー	ジョイセフ
吉留 桂	教材制作・業務実施支援	ジョイセフ
腰原 亮子	現地業務マネジメント	ジョイセフ
矢口 真琴	現地業務マネジメント 支援	ジョイセフ
Nang Noi Leik	現地業務コーディネーター	ジョイセフ
Khaing Zar Myint Lwin	現地業務プロジェクト・オフィサー	ジョイセフ
Su Hlaing Po Kya	現地業務経理オフィサー	ジョイセフ

※1：原 潤子 従事期間：～2015年8月

※2：野元 世界 従事期間：2015年9月～

1-2-3 相手国実施機関

保健スポーツ省（以下、「保健省」と記す）公衆衛生局が相手国実施機関で、教材制作においては健康教育課、月経教育活動においては学校保健課、また教材の内容全般においては母子保健課と実施をする。教材の使用については、各課が管轄するタウンシップ・オフィサーが活動の実施者となり、さらに学校を管轄する村・地域の保健従事者が教育活動をサポートする。

1-3 事業概要

1-3-1 対象地域

対象地域は、選択基準である、①モニタリングのためのアクセスが容易であること、②著しく貧困率が低い地域、③タウンシップ・メディカル・オフィサーの協力等を基に、各課と協議の上、対象地域の選択を行った。エヤワディー地域及びバゴー地域が候補となり、最終的に保健省より州保健局長と確認の上、下記の5つのタウンシップが確定した。

エヤワディー地域	Kyaungon, Pantanaw
バゴー地域	Gyobingauk, Nattalin, Okpo

1-4 普及対象とする技術（製品、ノウハウ、システム等）

1-4-1 普及対象とする技術・商材

本事業で、普及を図る技術は、「月経教育教材『はじめてからだナビ』（冊子）」、商材は、「生理用ナプキン『Sofy Eva』」の2点である。月経教育教材「はじめてからだナビ」は、2004年に日本で開発された。思春期の女子生徒におきる身体の変化を、大人になる第1歩としてポジティブな気持ちへ繋げること、そして大きな変化の一つである月経への対処方法の啓発を目指している。



図 1 はじめてからだ ナビ

「はじめてからだナビ」は思春期の女子生徒向けの34ページの冊子（B6版）、保護者向けの4ページの小冊子（B6版）、及び記入式のカレンダー（B5版）からなり、内容は①思春期における体の変化、②月経の仕組み、③生理用品の使用法、④月経中の体のケア、⑤Q&Aの5つの章から構成されている。全ページ、フルカラーでイラストを豊富に使い、思春期の女子生徒が受け入れやすいデザイン・レイアウトになっている。

また、普及商材の「Sofy Eva」は、吸収力を生むダブル・コントロール・シェイプにより、経血の多い日でも長時間、もれの不安なく過ごすことが可能である。ミャンマー向けには、1枚入り商品も2013年後半より販売を開始しており、現金収入が少ない人でも小単位の枚数から購入で

きるような商品のラインナップを行っている。



写真 1 Sofy Eva ラインアップ



写真 2 店頭に並ぶ“1枚入りの商品”

1-4-2 国内外の販売・導入実績

「はじめて からだナビ」は、医師の監修協力（東京都済生会中央病院の大野暁子先生）を得て開発され、日本で小・中学校において女子生徒本人、保護者、学校関係者などに広く使用されている。ウェブサイトでは2004年に公開を開始し、その後2013年4月に対象である女性生徒の保護者や学校関係者向けページの強化を行うと共に改訂を行っている。ウェブサイトへのアクセス件数は、55万件（2014年4月～2014年9月までの6ヶ月間）となっており、改訂の前年の2012年の平均アクセス数と比較しても、28%増加であった。

また、弊社が2013～2014年にインドで実施した JICA BOP ビジネス連携促進「農村部への生理対処品普及事業準備調査」においても、ヒンズー語の同冊子教材が制作され、20,100人の女子生徒が月経についての教育を受けた。

ミャンマーでの2013年度 Sofy Eva の販売実績は約50億 kyat（約41,630,000円、JICA 外貨換算レート表2017年5月参照）、全国市場シェア57%（2014年7月、金額ベース。UC調べ）である。都市部・地方部ともに幅広い販売ネットワークを保持し、生理用品の代表商品として認知率はほぼ100%（2014年、YangonにおけるUC調査）と知られ、生理用品が初めての方にも、安心して使用できる商品である。

1-4-3 事業目的

ミャンマーの人口・経済の継続成長と、特に地方部での低い月経知識・生理用品の使用率を捉え、本事業での解決によりミャンマーの女性の社会進出や経済的参画を後押しするとともにミャンマーの生理用ナプキン市場と、弊社事業の拡大を目的とする。

1-4-4 期待される開発効果

「月経教育」と「生理用ナプキンの試供品配布」により、女子生徒が、自身の身体の変化についてポジティブに理解し、月経に際して安心と清潔を保つ方法を身につけ、それにより月経中でも気にせず学業などに取り組める環境を整備する。そして生理用ナプキンの市場拡大を促進する。

1-4-5 事業達成目標

ミャンマー国政府・保健省公認の月経教育教材の開発、その活用を通じた月経教育実施と「Sofy Eva」生理用ナプキン試供品配布、及び生理用ナプキンの活用の促進を目標とする。

1-5 実施スケジュール

本事業の現地活動の実施スケジュールを下記に記す。

	1年目 (2015.7-2016.6)												2年目 (2016.7-2017.6)											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
活動 1: ミャンマー向けドラフト案作成																								
活動 2: 月経教育教材内容検討ワークショップ																								
活動 3: 地域限定利用版教材制作																								
活動 4: 指導者向け教材活用研修																								
活動 5: タンシップレベル月経教育活動実施																								
活動 6: フィードバック収集																								
活動 7: 教材修正/全国普及版制作																								
活動 8: 成果共有会議																								
モニタリング・監督指導																								

表 1 実施スケジュール

第2章 事業実施内容と成果

2-0 活動概要

本事業は、月経教育ツール「はじめて からだナビ」のミャンマー向け地域限定利用版（ベータ版）を作り、月経教育活動の中で活用テストを行うとともに、ミャンマーの生理用ナプキンで最も親しまれる「Sofy Eva」を、サポーターブランドとして月経教育活動を通じて紹介する。その後、ミャンマー国内に広く普及させるため、ミャンマー国政府・保健省からの承認を得て、全国に普及できる全国普及版（リリース版）の制作を目的とする。活動概要は、下記の通りである。

＜第1段階＞ミャンマー向け教材、地域限定利用版の作成		
活動1	ミャンマー向けドラフト案作成	「はじめて からだナビ」ミャンマー向け教材のドラフト案（思春期の女子生徒向け小冊子、保護者向け三つ折パンフレット、月経記録カレンダー）の作成。
活動2	月経教育教材内容検討ワークショップ開催	ミャンマー語に翻訳された「はじめてからだナビ」のドラフト版を基に、1日間の内容検討ワークショップを開催。
活動3	地域限定利用版教材作成	内容検討ワークショップで得られた結果を基に、地域限定利用版の4種類の月経教育教材の作成。 ①女子生徒向け小冊子「はじめてからだナビ」（A5サイズ、20ページ、フルカラー） ②保護者向け三つ折パンフレット（A4サイズ三つ折、2ページ、フルカラー） ③月経記録カレンダー（A5サイズ二つ折、2ページ、フルカラー） ④大判ビニール製フリップチャート（A1サイズ、10枚、フルカラー）
＜第2段階＞地域限定利用版教材のテスト活用及び全国普及版制作		
活動4	指導者向け月経教育教材活用研修	2日間の教育活動の指導者向けに、月経教育教材の正しい活用及び生徒に教えるためのスキル習得を目的とした研修をする。
活動5	タウンシップレベル月経教育活動実施	5つのタウンシップから6つの学校を選び、各校で約200名の女子生徒とその保護者約100名に対して教育活動を実施する。女子生徒には、①小冊子、②月経記録カード、③生理用ナプキンの試供品（10個入り1パック）の3点、保護者には①保護者用の冊子を配布する。教育活動中には、大判ビニール製フリップチャートも活用する。
活動6	地域利用版教材活用フィードバック収集	月経教育活動を実施した5つのタウンシップの内、1つのタウンシップ（チャウンゴン・タウンシップ）の2校で、女子生徒400名、女性の保護者200名に対しフィードバック収集を実施する。6月に実施した月経教育活動の直前・直後、そして月経教育活動開始【活動5】から約3ヶ月後に、月経に関する見方、知識の定着状況及び生理用ナプキンの使用の拡大可能性を測るための質問票を用いたフィードバック

		ク収集を実施。また教育活動3か月後、女子生徒約20名、保護者約10名から小規模の聞き取り調査を行い、教材活用後のフィードバックをまとめる。
活動7	教材修正・全国普及版制作	【活動6】の調査結果を参照し、地域限定利用版の修正をする。全国展開を見据えたミャンマー国政府・保健省公認の教材を完成させる。最終版の印刷用データは、ミャンマー国政府・保健省に今後の全国展開と普及のために譲渡する。
活動8	月経教育ツール完成発表会開催	ミャンマー全土の普及に向けた、成果共有会議を開催。

2-0-1 活動準備

国内での準備作業として、ミャンマー向け教材ドラフト案作成に向け、ミャンマーの状況やページ数の削減を考慮し、日本語版「はじめてからだナビ」の内容を精査した。それを基にミャンマー向け教材の第1ドラフト案（英文）を制作した。第1ドラフト案（英文）のポイントは下記に記す。

- ・ 女子生徒が自分に引きつけて考えることができるよう、最初と最後に漫画を導入。漫画の主人公に同年代の主人公（Khin Hnin Si）を起用し、月経について学ぶストーリーを加え、最後に学んだ内容を総括する会話で終わらせる。
- ・ 布ナプキンを利用している生徒もいるため、布ナプキンの使用とその管理方法を紹介する部分を追加する。
- ・ 生殖器の絵はシンプルにしすぎず、医学書のようにしない。
- ・ ナプキンの種類については現場の状況に合わせ、また、生理用ナプキンへのアクセスを考慮し、最低限の情報を記載する。
- ・ 「はじめてからだナビ」に女子生徒の一日を紹介しているが、ミャンマーでは生活のリズムや様式が画一的ではないため、削除する。
- ・ 「生理中は学校を休まないで」等、現地に合わせたメッセージを追加する。
- ・ 文字を減らし、フォントを小さくしすぎない。
- ・ 生理用ナプキンの利点を加える。
- ・ タンポンの情報を割愛する。
- ・ 本案件の開発効果は自分の身体の変化をポジティブに理解し、月経に際して安心と清潔を保つ方法を身につけ学業に取り組める環境を整備することである。そのため、メッセージがぶれないよう、妊娠の仕組み（メカニズム）についての詳細な説明は省く。
- ・ 月経サイクルの図等は政府で推奨しているものを活用する。
- ・ 食生活について具体的な食材を加える。

現地活動の開始にあたり、カウンターパートである保健省公衆衛生局関係課との共通理解を持つため、キックオフ会合を持った。保健省関係者のスケジュールの都合で、当初予定していた関連の3課（母子保健課、健康教育課、学校保健課）による合同の会合実施はできなかった。そのため、2015年7月16日～17日、個別に保健副大臣（Dr. Thein Thein Htay）への表敬、健

健康教育課長、学校保健課長、母子保健課長と協議した。協議内容は、プロジェクト概要説明、内容検討ワークショップ開催・教材制作へ向けての準備・実施について、「はじめて からだナビ」ミャンマー向け教材の第1ドラフト案（英文）の提示等をし、情報・意見交換を行った。保健副大臣からも本案件が推進する思春期を迎える女子生徒に月経に関する健康教育の実施の重要性、生理用ナプキンの利用の促進への理解を得ることができ、本案件実施へのスタートを切ることができた。その際、保健副大臣からは、プロジェクトの英文タイトルについて、ミャンマー国内でより受け入れやすくするため、「生理用ナプキンの使用の促進」を表に出さず、「女性の衛生の向上」とし、また「学校保健」の枠組みで実施することの助言を受けた。この助言を受け、英語でのプロジェクトタイトルを、当初予定していた”Program for Promoting Usage of Sanitary Napkins through Personal Hygiene Education for Young Girls in Myanmar” から、”Program for Improving Female Personal Hygiene through School Health Education among Young Girls”に変更した。

2-1 ミャンマー向けドラフト案作成

2-1-1 教材作成に保健省の承認を得る手続き

保健省公認の教材制作にするための手続きについて、下記の点がキックオフ会合で確認できた。

- ・ 【活動5】の月経教育活動では、地域限定利用版とする。
- ・ タウンシップで活用する前には、地域限定利用版を最終化・印刷し、公衆衛生局長レベルの承認を必要とする。
- ・ 教材の全国普及版には、学校保健課の承認後、健康教育課から公衆衛生局長に提出し、保健大臣の決裁で、保健省公認を得ることができる。
- ・ 全国普及版には、出版年月を情報として掲載が必要とする。

2-1-2 教材へのロゴの掲載

保健省公認の教材に、特定の企業のロゴを掲載することは基本的には難しいが、冊子の最終ページに、JICA、ジョイセフ、ユニ・チャームからの技術協力と記述し、小さいロゴを入れるのは可能である、とキックオフ会合で意見をもらった。

2-1-3 ミャンマー語版ドラフト案制作

月経教育教材の「はじめて からだナビ」の第1ドラフト案（英文）について保健省関係者と協議し、下記の点が指摘された。ミャンマー語版作成に向け、第1ドラフト案の文章の削減と見直し、ミャンマー向けのイラストの作成を現地業者に依頼をした。

- ・ 女子生徒用の教材の内容は、短く、簡潔にし、文字や説明を少なくする。
- ・ 保護者用の教材の内容も、簡潔化し、文字や説明を少なくする。
- ・ 英文をミャンマー語に翻訳すると、文字数が長くなる傾向があるので考慮が必要である。
- ・ 若い女性の興味を引くように、イラストを豊富に利用する。



写真 3 教材作成

英語のサンプル版で方向性が決まった後、テキストをミャンマー語に翻訳した。3種類の教材のミャンマー語翻訳には、旧中央健康教育本部（現健康教育課）の元局長で、現在は月経教育を含む幅広い健康教育活動のコンサルテーションを行っている Dr. Khin Mg Lwin の協力を得た。

2-2 月経教育ツールコンテンツ検討ワークショップの開催

➤日時：2015年10月21日

➤場所：Mingalar Thiri Hotel、ネピドー

➤参加者：計46名、（保健省公衆衛生局：18名、教育省基礎教育局：1名、バゴー及びチャウンゴン地域保健局：各1名、対象地域の5つのタウンシップ：14名、現地NGO：2名、国連人口基金：1名、JICA ミャンマー事務所：2名、MYCARE Unicharm：1名、ジョイセフ：5名）

本事業チームと公衆衛生局がファシリテーションチームを組み、ミャンマー版の月経教育教材の内容を検討するためのワークショップの企画・運営をした。ワークショップは2部構成とした。第1部では、公衆衛生局次長（Dr. Yin Thandar Lwin）から開会の辞があり、その後、ジョイセフより本事業の概要説明、MYCARE Unicharm よりミャンマー国内における生理用ナプキンの使用状況についての調査結果のプレゼンテーションを行った。第2部では、参加者を4グループに分け、女子生徒向け小冊子、月経記録カレンダー、保護者向け三つ折パンフレットの内容を検討し、ミャンマー版教材作成に向けたサンプル版の修正箇所の特定及び修正案出しを参加型で行った。

本ワークショップ中に、5つのタウンシップの参加者より、対象女子生徒を1校300人とするのが難しい、という意見が出された。その理由として、対象生徒数が300人よりも少ない学校があるためである。各タウンシップより、対象年齢の女子生徒の数を出してもらったところ、平均して200名であることが分かったため、当初の計画では、対象女子生徒数を計9,000人（300人×6校×5タウンシップ）としていたのを、実情に合わせ、計6,000人（200人×6校×5タウンシップ）に変更した。

2-3 地域限定利用版の教材作成

2-3-1 コンテンツ検討ワークショップの成果を基にした地域限定利用版作成に向けた協議

➤日時：2015年10月22日

月経教育ツールコンテンツ検討ワークショップの翌日に、地域限定利用版作成に向け、健康教育課と修正案の確認作業を行った。その後、母子保健課課長に、修正点について、技術面での確認を行い、サンプル版プリテストの準備をした。

2-3-2 サンプル版プリテストの実施

➤日時：2015年10月26日

➤実施場所：チャウンゴン・タウンシップ（Pein Ga Yet Gyi 村、A Wa Su 村）

まず、同タウンシップ保健局の協力を得て、サンプル版教材



写真4 ワークショップの様子

を用いた教材のプリテストを行った。ウエッチャン農村保健所管轄下の Pein Ga Yet Gyi 村で、11～15 歳（7～9 年生）の女子生徒 5 名、同年代の子どもを持つ保護者 5 名、チャウンゴン・タウンシップ母子保健センター管轄下の A Wa Su 村で 10～14 歳の女子生徒 5 名に対して実施した。女子生徒向け小冊子・保護者向け三つ折パンフレット・月経記録用カレンダーの 3 種類の教材について個別インタビューを通じて、教材についてのフィードバックを得た。概ね「月経についての知識を得られる」という肯定的な意見が多く得られた。教材の修正に大きな影響をあたえる内容のコメントはなかった。しかし、小冊子に掲載し、同年代の少女による初潮の経験談の中の、「(月経中は) 髪を洗わない」「食事を制限する」等、伝統的に信じられている迷信をそのまま正しいことだと信じる女子生徒がいることがわかった。この点を含め、コンテンツ検討ワークショップ及びプリテストの結果を基に、地域限定利用版の教材内容を固めた。



写真 5 プリテストの様子

2-3-3 フリップチャートの作成

フリップチャートは、女子生徒向け小冊子から内容を抜粋し、ドラフト版をカラー印刷で作成した。このフリップチャートドラフト版は、2016 年 1 月 21 日に開催した「指導者向けツールの活用研修」で、実際に使用し、イラスト部分の追加等の意見を得、反映した。



写真 6 フリップチャート

2-3-4 地域限定利用版の教材の完成

保健省公衆衛生局局長の承認を得て、2015 年 12 月に地域限定版の月経教育教材、①女子生徒向け小冊子、②保護者向け三つ折パンフレット、③月経記録カレンダー、2016 年 5 月には、④フリップチャートが完成した。

なお、教材制作の再委託業者選定については、4 社から見積もりを提出してもらい、また各社のサンプル印刷物の質の確認も合わせて行った結果、製品の質が確保され、かつ金額の最も低かった Aung Thein Thang 社を選んだ。

2-4 指導者向け月経教育教材活用研修

- 日時：2016 年 1 月 20 日～1 月 21 日（2 日間）
- 場所：Mingalar Thiri Hotel、ネピドー
- 対象者：計 27 名（5 つのタウンシップ：各 3 名（タウンシップ・メディカル・オフィサー、助産師、学校保健担当者等）、保健省各 3 課＜健康教育課、学校保健課、母子保健＞：ファシリテーターとして 7 名、オブザーバー：5 名）

2015 年 12 月に完成した地域限定利用版の月経教育教材の現場活用に向けた指導者へのツール活用研修を、学校保健課と協働で開催した。研修の主な内容は下記の通りである。

日付	内容	備考
1月20日 (1日目)	開会挨拶	Dr. Kyi Lwin (公衆衛生局学校保健課課長)
	プロジェクトの概要説明	浅村里紗 (ジョイセフ、人材養成グループ長)
	月経教育ツールの内容確認・模擬セッションと指導案の説明・授業の演習 (女子生徒・保護者対象模擬セッション)	
1月21日 (2日目)	ミャンマーにおける生理用ナプキン使用状況説明	西岡泰尚 (MYCARE Unicharm、マーケティング部長)
	指導案内容確認及びフリップチャートの内容確認	
	各タウンシップ活動計画立案	
	地域限定利用版の月経教育教材の配布	各タウンシップ 150部 (ベーシックヘルススタッフ周知用)

本研修では、外部人材であるジョイセフの教材活用専門家が、教材を活用した模擬授業を実施した。月経教育ツールの内容を参加者と確認し、月経教育を限られた時間で効果的に行うための指導案を提案した。研修中、研修参加者から指導案についてコメントを受け、改良された。

研修中、模擬セッションを通して、教材を使用した授業の実施スキルを各タウンシップが習得したことを確認した。参加者はプログラムの全行程を通して集中力を保っており、講義やグループ討議で積極的な質問や意見が聞かれた。参加者による研修へのフィードバックの結果からも満足度は高いことが分かった。



写真 7 指導者向け月経教育教材活用研修

▶ 授業の演習ではタウンシップ毎にグループワークで進めた。その際、各グループに学校保健課、母子保健課、健康教育課が必要に応じて技術的なサポートに入った。演習の発表を通してグループ間で工夫を取り入れる方法をとった。生理用ナプキンを使い慣れていない女性の受講者はナプキンを下着に装着する演習を念入りに行っている様子も見られた。また、カレンダーへの記録をわかりやすく説明する方法について議論を交わした。



写真 8 パンフレット

▶ フリップチャートを学校の会場にどのように設置するかの方法について具体的に検討した。
▶ 計画立案においては、よりニーズの高い地域を選びたいとの強い希望が、一部のタウンシップからあがり、検討された。女子生徒のみならず、男子生徒への理解を深める必要があるとの意見が出たが、現場では男子生徒と合同で月経教育を行うのは困難であるとの意見があり、女子生徒を対象とすることとなった。

ミャンマー初の月経教育教材に対する関心は高く、学校保健課長からも、タウンシップレベルでの活動実施に対し、全面的な協力の申し出を受けた。

2-5 タウンシップレベル月経教育活動実施

教育活動は5つのタウンシップから6校を選び、各校で約200名前後の女子生徒とその保護者約100名を対象とした。

2-5-1 月経教育活動への参加者数

保健省の枠組み内で学校保健活動を行う期間は6～9月であり、本活動は6～8月に行った。計30校の学校の5～9年生（10～16歳）の計10,692名（女子生徒6,134名、保護者4,558名）に向けて、月経教育活動を行った。

No.	学校名	日付	対象学年	参加者数	
				女子生徒数	保護者
1) エヤワディー地域					
① チャウンゴン・タウンシップ					
1	Daung Gui	2016/7/20	6年生	137	130
		2016/7/21	7年生	126	120
2	Asugyi	2016/6/16	6、7、8年生	136	93
		2016/6/22	6、7、8年生	202	202
3	Gon Min	2016/6/23	6、7、8年生	206	206
4	Kanyin Thonsint	2016/7/5	6、7、8年生	152	150
5	Tagon Tine	2016/7/7	6、7年生	110	91
6	Hle Seik	2016/7/12	6、7年生	97	89
小計				1166	1081
② パンタナウ・タウンシップ					
1	Myo Ma (1)	2016/7/1	6、7、8、9年生	202	108
		2016/8/17	8年生	141	42
2	Myo Ma (2)	2016/8/10	6、7、8年生	210	95
3	Choung Ka Lay	2016/6/21	6、7、8、9年生	243	162
4	A Su Kyi	2016/6/23	6、7、8、9年生	188	156
5	Inn Ma	2016/8/9	6年生	79	65
		2016/8/9	7、8年生	193	85
6	Yay Pow	2016/8/16	6、7、8年生	80	49
小計				1336	762
2) バゴー地域					
① ジョビンゴー・タウンシップ					
1	Shwe Pan Tan	2016/6/16	5、6、7、8年生	193	135
2	Shan Queen	2016/6/16	5、6、7、8年生	120	105
3	Ygn Ppyay Road	2016/7/12	5、6、7、8年生	114	63
4	Ba Yink Naung	2016/7/15	5、6年生	181	38
			7、8年生	173	30
5	Gyobingauls	2016/7/22	5、6、7、8年生	226	75

6	Pan Tin	2016/7/25	5、6年生	132	67
			7、8年生	149	59
小計				1288	572
② ナタリン・タウンシップ					
1	Myo Ma	2016/6/21	6、7年生	154	102
			8年生	103	103
2	Nattalin	2016/6/23	6、7年生	136	133
			8年生	95	93
3	Tar Pon	2016/6/27	6、7、8年生	199	199
4	Pol Ma Khan	2016/7/14	6、7、8年生	109	87
5	Da Ma Ngel	2016/7/21	6、7、8年生	192	162
6	Aung Zayar	2016/7/28	6、7、8年生	177	167
小計				1165	1046
③ オクポ・タウンシップ					
1	Aye Mya Thargar	2016/6/28	5、6、7、8年生	190	138
2	Oel Thal Kone	2016/7/13	5、6年生	113	110
			7、8年生	110	103
3	La Thal Kone	2016/7/18	5、6、7、8年生	120	108
4	Tain Nyunt	2016/7/23	5、6、7、8年生	202	202
5	Gone Nyin Tan	2016/7/24	5、6、7、8年生	206	201
6	Oakpho	2016/7/30	5、6年生	120	120
		2016/7/30	7年生	118	115
小計				1179	1097
合計				6134	4558

表 2 月経教育活動の学校数

2-5-2 月経教育教材・生理用ナプキン試供品の配布

参加した女子生徒に、①小冊子、②月経記録カード、③生理用ナプキンの試供品（10個入り1パック）の3点、参加した保護者には保護者用の三つ折パンフレットを配布した。印刷・配布した教材及び生理用ナプキンの試供品の数は、以下の通りである。

地域限定利用版女子生徒向け小冊子	15,000部
地域限定利用版月経記録カレンダー	15,000部
地域限定利用版保護者向け三つ折パンフレット	15,000部
地域限定利用版フリップチャート	20部
生理用ナプキン試供品（Sofy Eva 10個入り）	6,580個

教材については、対象タウンシップ内で働く保健所職員（助産師等）にも配布し、月経教育を受けた生徒が農村保健所に相談に来た際に対応できる体制を作った。また、生理用ナプキンの試供品については、当初は、個別包装2個を生徒と保護者に配布予定であったが、公衆衛生局より、「月経周期1回分は生理用ナプキンを使用できるように、1パックずつ配布してほしい」という希望を受け、生徒全員に対して、10個入り生理用ナプキン1パックずつを配布することに変更した。

2-5-2 月経教育活動のモニタリング

2016年6月にチャウンゴン、ジョビンゴ、パンタナウン、ナタリン、オクポの全5タウンシップを対象に「月経教育ツール活用のモニタリング及び技術指導」を実施した。全5タウンシップにおいて、参加型の大変丁寧な質の高い月経教育が展開されていることが確認された。また1月のワークショップ参加者15名が中心になり、タウンシップごとに農村保健所の助産師を加える等、チーム作りがなされていたことも確認された。回数を経て改善を重ねてきている様子も把握した。

モニタリングチームには保健省公衆衛生局学校保健課のDr. Win Lae Htut 次長及びバゴ地域母子保健課よりDr. Naw Naw Hlaingの参加を得て実施し、その結果以下を確認した。

- 「指導者向け月経教育教材活用研修」に参加した各タウンシップの指導者が「教材を使用した授業の実施スキル」を習得したことを確認した。本案件で作成した地域限定利用版の月経教育ツール一式である①女生徒用小冊子②月経記録カレンダー、③保護者用三折パンフレット、④フリップチャート）が全て使用され、指導者向け教材活用研修で演習した通り、基本的な情報を網羅した形で実施されていることを確認した。また、生理用ナプキンの試供品（10個入り1パック）が生徒および保護者に配布された。
- 研修を受けた15名の指導者が中心となり、各タウンシップではタウンシップ・メディカル・オフィサーと学校の協力の下、授業が実施された。また、雨期でありながら多くの保護者が参加していた。
- 女生徒がセッションに集中し、教材をよく参照



写真 9 試供品の配布



写真 10 女生徒向け月経教育活動



写真 11 月経教育活動
(女生徒の様子)



写真 12 月経教育活動 (保護者の様子)

し、楽しんでいる様子が観察された。

- モニタリングを通して月経教育教材の全国普及版制作にむけた提案を検討した。
- 授業の質の向上を目的とした、モニタリング・チェックシートを準備し、タウンシップごとに月経教育活動の実施状況を点数化した。項目には、「フリップチャートが生徒に見えやすい位置に設置されているか?」、「声が聞き取りやすいか?」、「アイコンタクトは?」等を含み、これらの項目を「良い」「ふつう」「悪い」の三段階で評価した。

Monitoring Assessment: Preparation

Township	Well Done	Moderately done	Need improvement
Pantanaw	11	3	1
Kyaunggon 1	13	2	0
Kyaunggon 2	13	2	0
Nattalin	15	0	0
Gyobingauk	7	8	0
Oakpho	6	5	4

表 3 モニタリング・チェックシート 準備中

Monitoring Assessment: During Session

Township	Well Done	Moderately done	Need improvement
Pantanaw	41	16	3
Kyaunggon 1	43	16	1
Kyaunggon 2	44	16	0
Nattalin	47	12	1
Gyobingauk	47	11	2
Oakpho	34	24	2

表 4 モニタリング・チェックシート セッション中

- 「授業の実施状況」については 20 項目を 3 名のモニタリング実施者が行ったため、各タウンシップの合計点数は 60 点となっている。
- 生徒の参加を促すため、多くの工夫がなされていた。たとえば、デモンストレーションには女子生徒を招いて行う、クイズ部分に景品をつける、フリップチャートは会場の側面に予備のフリップチャートを展示し後部に座る生徒が見やすい様に配慮する。
- 現場では男子生徒と合同で月経教育を行うのは困難であるとの意見が非常に強く、当面は女子生徒のみに限定した月経教育セッションが現実的であることが確認された。
- 本モニタリングに同行した保健省公衆衛生局学校保健課の Dr. Win Lae Htut 次長及びバゴー州母子保健課の Dr. Naw Naw Hlaing と対象年齢の特徴及び各タウンシップの対象校の状況を把握し、指導案の改訂を検討した。また、教材の改訂（「カレンダー」部分の説明の簡素化等）にむけて討議し、全国普及版制作に向けた提案内容について確認した。

2-5-3 受益者からの声

以下は、5つのタウンシップの指導者を通じて得られた、月経教育に参加した生徒、保護者、学校関係者からのコメントである。

① チャウンゴン	生徒は大変興味深く聞き入っていました。特に低学年は全く知らないことを学ぶため、とても驚いた様子で集中して話を聞きます。保護者は特に興味を持って「月経は普通なこと」というメッセージをしっかりと受け止めて帰っていかれます。また、保護者からはもっと詳しく知りたいとの要望があったため、保護者と教員を対象にリプロダクティブ・システム（生殖機能について）の話をしました。学校からはより多くの女子生徒への授業を行ってほしいとの要望を多く受けています。
② ジョビンゴー	「知らないことを学ぶことができた」と生徒から喜ばれました。「お尻には大切な三つの穴があります」と私が説明すると女の子たちはそれを知らず、皆とても驚きます。知ることはとても大切です。授業中には恥ずかしくて発言できない生徒でも道で出会った際に「良い授業だった」と声をかけられることは嬉しいです。また、「月経の先生」と呼ばれるようになりました。保護者からの要望も高く、教員からは全ての教員が参加して学ぶ必要があるとのコメントがありました。生徒と保護者より、ナプキン試供品を「もっとほしい」とのリクエストが寄せられました。この授業をしたことがきっかけとなり、学校のトイレが掃除されるようになりました。学校にも変化が生じていることは嬉しいことです。
③ パンタナウ	生理前のおりものは何か心配することなのか質問を得ました。その他、「月経が遅れるとどうなってしまうのか？どうすれば良いのか？」。学校、保護者は協力的で授業にとっても感謝し、今後もし是非実施してほしいと依頼されました。
④ オクポ	保護者からは「娘の月経への心配が軽減しました」とのコメントがあり、感謝されました。月経教育は生徒だけではなく、保護者の不安解消にもつながっていることがわかりました。教員からは特にナプキンの使用方法の手順が詳細に説明されている点や「自分を大切にすること」がメッセージに入っていたことが良かったとのコメントがありました。学校からは、教員が説明しにくい（教員の知識や理解度が低い）分野の授業を実施することに感謝されました。将来望まない妊娠に直面しないための情報は非常に大切であるが教員が伝えるのは難しいためです。また、月経記録をつけることも将来のためになるとのコメントがありました。さらに、セッション後、生徒から「今まで誰に相談すれば良いのかわからなかったが、これからは相談できる」とのコメントがありました。保護者からは「今までは月経について何を説明し、何を準備すればよいかわからなかった」という意見もきかれました。
⑤ ナタリン	保護者は娘の体の変化を知ることができたと「月経教育セッション」に感謝していました。生徒からは初経前に月経について説明を受けることができて

	良かったとのコメントがありました。生徒は恥ずかしがっていましたが、身体の変化について知ることができたことに満足そうな表情が観察されました。学校はこの授業の導入を大変喜び、とても効果的な内容なので、今後も是非継続してもらいたいとのリクエストを受けています。
--	---

2-5-4 女子生徒・保護者（バゴー州パンタナウ・タウンシップ）からの声

Khin Cho Cho Pyone さん（13歳、写真左）	「いつか出血があると母から聞いたことはありました。でも、どこから出血するのかわからなかったので、今日は月経について説明があつてよかったです。おなか少し痛くなることやどうすれば良いのかがわかりやすかったです。なんだか安心しました。」	
Khin Cho Cho Pyone さんの母親（写真右）	「私がうまく説明できないので、今日の授業はありがたかったです。」	

写真 13 Khin Cho Cho Pyone 親子

2-6 地域限定利用版の教材活用フィードバック収集

フィードバック収集は、月経教育活動及び生理用ナプキン試供品の配布による、①女子生徒の月経や身体の仕組みに関する知識・理解・見方の変化、②女子生徒の生理用ナプキンへの関心・使用意向、③保護者による月経教育への反応及び子どもへの対応、④全国普及版教材制作のためのコメント収集を目的に実施した。フィードバック収集の実施概要は、下記の通りである。

実施時期	月経教育直前	月経教育直後	月経教育3か月後	
	2016年6月	2016年6月	2016年9月	
目的	① 月経教育前の月経知識と生理用ナプキン使用の興味・関心	① 月経教育直後の月経知識と生理用ナプキンの興味・関心の変化 ② 教材についての意見	① 月経教育3ヶ月後の月経知識の定着と生理用ナプキン使用の拡大可能性	② 教材改善点の特定のための情報
実施場所	1タウンシップの2校 (Kyaungon Township)	同左	同左	同左
対象者-1	5～8年生女子生徒（10～14歳） 400名（200名×2校） *初潮経験有無不問	同左	同左	有意抽出サンプル 5～8年生女子生徒（10～14歳） 20名
対象者-2		5～8年生女子生徒（10～14歳）の		有意抽出サンプル 5～8年生女子生

		女性保護者 200名（100名× 2校）		徒（10～14歳）の 女性保護者 10名
教育活動実施者	教材使用研修に参加したタウンシップ保健局職員			
検証方法(生徒・保護者)	事前アンケート（選択式）	事後アンケート（選択式）	3ヵ月後アンケート（選択式）	聞き取り（選択式+記述）
検証方法(指導者)	指定フォーマットへの記述			

フィードバック収集の質問票は、弊社及びジョイセフが英語で作成した後、ミャンマー語に翻訳し、保健省公衆衛生局学校保健課が内容確認を行った。アンケート用紙の配布・説明・回収は学校保健課の協力の下、ジョイセフが中心になって実施した。アンケート用紙の集計及び分析は、調査再委託先として選ばれた View Research 社が実施した。

2-7 全国普及版制作

2-7-1 全国普及版制作までの活動

全国普及版の制作には、以下の活動結果を反映した。

- ・ 月経教育活動時のモニタリング
- ・ 事前・事後・3ヶ月後アンケート
- ・ 保健スポーツ省公衆衛生局学校保健課、健康教育課、母子保健課による修正箇所の確認
- ・ 女子生徒・保護者からの3ヶ月後の聞き取り
- ・ 教材使用者であるタウンシップ保健職員からのフィードバックシート



写真 14 小冊子変更前後①

2-7-2 全国普及版の主な修正点

修正点を下記に数点挙げる。

- ・ 「身体的変化」に、ライフスキルの教科書に記載されている「心理的变化」の項目を加える。(小冊子 Pg.3) <対処>⇒学校保健課・健康教育課から提供された「心理的变化」の8項目を加えた。
- ・ 「膣の位置を説明するのが難しい。実際に指導セッション中に口頭で説明する言葉を加えてほしい。」(小冊子 Pg.5) <対処>⇒説明文を加えた。



写真 15 小冊子変更前後②

- 「冊子内のクイズ質問が、否定形が重なりわかりづらい文章になっている」(小冊子 Pg.11) <対処>⇒否定形を使わない文書に変更した。
- 「特定の食物をとりすぎると月経に影響があるので『何を食べてもよい』という箇所を修正する。(小冊子 Pg.9) <対処>⇒一部の食物について「適度な量であれば問題なし」と補足した。



写真 16 小冊子変更前後③

- 「月経記録カレンダーの周期を説明するのが難しい。」<対処>⇒カレンダーを簡略化し、月経周期を計算する形式を省いた。
- 「フリップチャートは重いので少し軽量化を図れるとありがたい。」<対処>⇒一部の情報を統合する等して枚数を 14 枚から 10 枚に。
- 「ナプキンを一日に替える回数について 4~5 回は現実的ではない。」<対処>⇒保健省関係者と協議し、理想的な回数を明示する必要があるとの結論に至り、訂正なし。

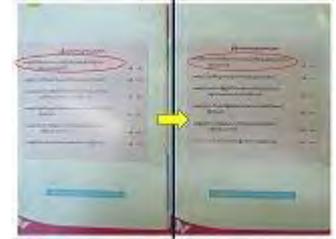


写真 17 小冊子変更前後④

2-7-3 全国普及版の譲渡

全国普及版は、2017 年 1 月 30 日付けで公衆衛生局学校保健課課長名の政府承認文書が発行された。全国普及版は、下記の通り印刷され、今後全国で使われるように学校保健課を中心に譲渡される。また、プリ・プレスデータは、今後少数民族の言語版制作が可能になるように、テキストレイヤーを書き換え可能になる状態で用意し、学校保健課及び健康教育課に譲渡した。

全国普及版小冊子：15,000 部（A5 サイズ、20 ページ、フルカラー）

- ・ Khin Hnin Si と Ma Ma Thant Shin のストーリー：導入（漫画）
- ・ からだの変化と月経の基本について
- ・ 月経についてもっと知ろう
- ・ 月経のサイクル（カレンダー）について
- ・ 月経中に知っておきたいこと（休息、栄養他）
- ・ 月経に関するクイズ
- ・ 月経中の対処方法（生理用ナプキン）について
- ・ 衛生的に保つために知っておくこと
- ・ 女の子たちからの声
- ・ 主人公・Khin Hnin Si と Ma Ma Thant Shin のストーリー：エンディング（漫画）



全国普及版月経記録カレンダー：15,000部（A5サイズ二つ折、2ページ、フルカラー）



全国普及版保護者向け三つ折パンフレット：15,000部（A4サイズ三つ折、2ページ、フルカラー）



全国普及版小冊子指導用フリップチャート：100部（A1サイズ、10枚、フルカラー）



プリ・プレスデータ：12セット

2-8 成果共有会議開催

- 日時：2017年2月2日
- 場所：ネピドー、Mingalar Thiri Hotel
- 対象者：計70名（公衆衛生局長代行、保健省公衆衛生局・教育省基礎教育局関係者：17名、17州・地域の代表・5つの活動実施タウンシップ：41名、国際NGO・現地NGO：4名、JICAミャンマー事務所：2名、MYCARE Unicharm：3名、ジョイセフ：3名）

2-8-1 全体の流れ

本事業の対象であった5つのタウンシップの成功事例と課題の共有及びミャンマー全土での拡大を目的として、中央政府と全州・地域に係る学校保健及び思春期保健活動に従事する関係者を招聘し、計70名の大規模な会合となった。開会式にて、公衆衛生局長代行である Dr. Than Win より、「今後、保健スポーツ省が強化をしていく学校保健の国家プログラムを支援する大変重要な内容である。また、思春期リプロダクティブ・ヘルスの向上を支援する教材・教育活動として、非常に意義の大きい事業である。」と述べられ、JICA、ユニ・チャーム、ジョイセフの貢献に感

謝する旨が伝えられた。その後、午前の部では、ジョイセフから本事業の概要と MYCARE Unicharm から次期事業の展望について説明、午後の部では、学校保健課及び対象となった5つのタウンシップによる経験共有と全国展開に向けた会議参加者との意見交換が行われた。

2-8-2 学校保健課及び実施5タウンシップによる経験共有

学校保健課課長及び次長より、2015年7月に行われたキックオフ会合から本日に至るまでの活動が静止画・動画を使って紹介された。また、チャウンゴン・タウンシップの2校で、月経教育活動及び教材の効果を検証するために授業直前・直後・3か月後の3回にわたり行ったアンケート調査結果が共有された。教育活動によって、月経についての知識が上がり、月経に対する否定的な見方が減少し、月経中の衛生的な行

動が促進されていること、また生理用ナプキンの使用への関心が上がり、実際試供品ナプキン使用後に、購入している生徒が9割であることが結果として提示された。月経教育活動を実施した5タウンシップの指導者より、実施上の学び、課題、課題を乗り越えたアプローチ、また、教育活動を効果的に行うための工夫等が報告された。今後新しい場所で活動が拡大される上で、活用され得る現場の経験が広く共有された。ま

た、生徒、保護者、学校からのフィードバックについて情報を、月経教育実施者より記述式でも集めた。

2-8-3 全国展開に向けた会議参加者との意見交換

本会議には、中央政府からは、保健省公衆衛生局より、学校保健課、母子保健課、健康教育課、教育省基礎教育局の局長補佐 (Assistant Director)、全17の州・地域保健局局长または局長代理、3つのNGO/国際NGOからの参加を得、広く本事業の成果を共有することができた。実施地域以外の州・地域や、NGOからの関心も高く、今後、本事業で制作された教材や教育方法を活用した月経教育活動が広がっていく可能性を示唆する意見交換が行われた。例えば、「今後の拡大エリアに含めてほしい」「指導者研修を受けられれば、印刷費は州予算で出し、活動を実施できる」「自分たちのNGOの予算とネットワークを使って、地域の中での活動実施が可能だ」等の意見が出された。また、会議に出席してきた国際NGOであるPopulation Service International (PSI)からは、早速自分たちの若者向け活動に教材を活用するため、300冊分けてほしい、というリクエストを受ける等、具体的な反響が出ている。



写真 18 成果共有会議 開会式



写真 19 成果共有会議 参加者の様子

2-8-4 他地域への波及

思春期保健分野で本事業内容と関連性の高い活動を行っている国連人口基金ミャンマー事務所と、教材及び活動内容の共有を行った。現在国連人口基金は保健省健康教育課を主たるカウンターパートとして、包括的性教育カリキュラムを現場で使いやすい啓発用教材に落とし込むための作業を進めており、本教材への活用も検討したい、というコメントを受けた。

第3章 本事業の総括

3-1 事業成果

3-1-1 政府公認の月経教育教材の開発

ミャンマー国初の保健省公認の月経教育教材が開発された。女子生徒用小冊子、月経記録カレンダー、保護者向け三つ折パンフレット、フリップチャート全てに、保健省とともに JICA、MYCARE Unicharm、ジョイセフのロゴが入った。これは、キックオフ会合で合意された内容よりも前進し、日本の支援が目に見える形となった。

3-1-2 開発効果①「知識の向上・身体の変化へのポジティブな理解」

- 月経教育セッションで学んだ後、女子生徒の月経に対する否定的な見方が、授業前に比べて大幅に下がっている。
- 月経教育前から3ヵ月後にかけて、月経があることへの自信が大きくなり、同時に、月経に対する恐れや恥ずかしさが減少している。(図2参照)
- 「生理用ナプキンをトイレに捨てるべき」と回答した女子生徒が84%から20%に減少した。(図3参照)



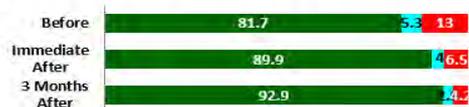
図2 月経に対する意識変化の比較

アンケート調査結果 ～生理用ナプキン知識～

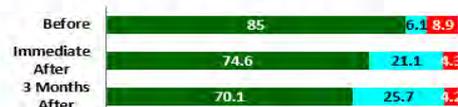
生理用ナプキンの廃棄方法など大幅に改善がみられる事項もあるが交換頻度などの知識浸透は限定的。

◆ 「月経教育前」 対 「直後」 対 「3カ月後」 の比較

1. 生理用ナプキンは漏れを防げる



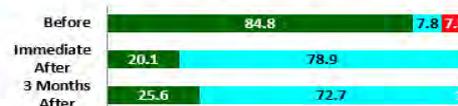
3. 生理用ナプキンは一日1回換えるべき



2. 生理用ナプキンは再利用できる



4. 生理用ナプキンはトイレに捨てるべき



■ 同意する □ 同意しない ■ わからない

Valid Base:
Before (S1Q3) — n=399
After (S2Q4) — n=397
3 months
After (S3Q4) — n=311

図 3 生理用ナプキンに関する知識変化の比較

3-1-3 開発効果②「生理中も安心して学業に取り組める基盤形成」

- 生理用ナプキンの使用に関して、「使いたい・使い続けたい」と回答した女子生徒が、3カ月後に大きく増加している。
- 女子生徒の間では、生理用ナプキンを使うメリットとして、「衛生的」「安心して、活発に活動できる」ことを挙げている。
- 女子生徒が生理用ナプキンを購入するためには、近所の店にナプキンがあることが重要である。なぜなら、多くの生徒が生理用ナプキンを自分の村で購入しており、買わない主な理由は、「家の近所で売られていない」からである。(図7参照)

3-1-4 月経教育活動及び教材への反応

- 98%の女子生徒が、月経教育活動は大切だと回答した。(図4参照)
- 300人中288人の女子生徒が、月経教育について誰かに話をし、80%は母親に、34%は友達に話した。
- 75%以上の女子生徒が小冊子の登場人物のイラストや、使われている言葉について、魅力的だと答えている。
- 約半数の女子生徒が、月経記録カレンダーの理解が難しいと答えている。
- 85%の保護者が、月経教育を好意的に受け止め、自分の娘にとって大切だと考えている。(図5参照)
- 83%の保護者が、月経教育参加後に、自分の娘に何かをしてあげたいと考えている。(図6参照)

アンケート調査結果 ～月経教育に対する生徒の反応～

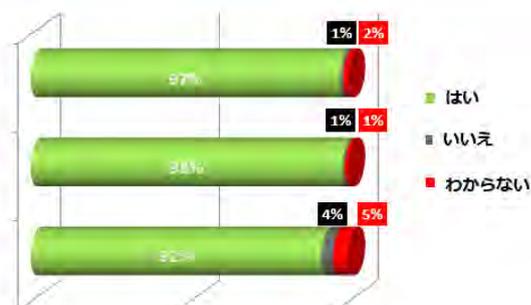
月経教育セッションと教材への反応は非常にポジティブ

月経教育直後

あなたは月経教育の授業が好きですか

授業はあなたにとって大切ですか。

教材は好きですか。



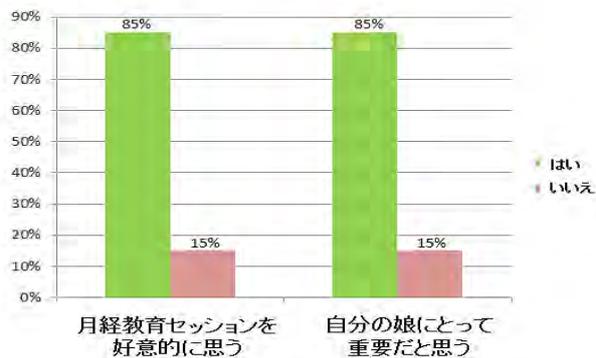
Valid Base:
(S2Q1) — n=395
(S2Q2) — n=394
(S2Q7) — n=393

図 4 月経教育に関する生徒の反応

アンケート調査結果 ～月経教育に対する親の反応～

月経教育セッションに対し母親はポジティブ評価。

月経教育についての全体的印象



Valid Base:
(P1Q7) — n=205
(P1Q8) — n=205

図 5 月経教育に対する保護者の反応

アンケート調査結果 ～月経セッション後 親の意識変化～

親が正しい月経知識を得ることで具体的な生活の変化が見込める。

今日の授業の後、あなたは月経に関して自分の娘のために何かしたいですか。

はい	いいえ		
83%	17%	1. 生理中は衛生的にできるように伝えたい	93%
		2. 生理用ナプキンの使い方について話したい	93%
		3. 身体の変化について話をしたい	90%
		4. 身の安全について伝えたい	86%
		5. 生理用ナプキンを買ってあげたい	84%
		6. 月経サイクルを記録するように伝えたい	82%
		7. 何か身体の変化について心配事があれば自分に相談するように伝えたい	77%
		8. その他	16%

P1Q10: 何をしたいですか。

Valid Base:
(P1Q9) -- n=205
(P1Q10) -- n=164

図 6 月経教育後 保護者の意識変化

3-1-5 3ヵ月後のインタビュー結果：女子生徒

- 月経教育を受けた後、使用済みナプキンの適切な処理、トイレの後の手洗い、バランスのとれた食事等、学んだことを実践している。
- 月経がある生徒は、全員新たにナプキンを購入していた。その理由として、「衛生的である」「漏れる心配がない」と答えている。
- 授業が良かった、と答えた女子生徒は、「知らないことを知ることができた」「指導者の人が、身体を使って授業をしてくれた」と答えている。

3-1-6 3ヵ月後のインタビュー結果：保護者

- 全員が、授業後に、娘に対して何かしら授業で学んでことを実践していた。「月経について話をする」「リーフレットに書かれている食べ物を料理する」「娘のためにナプキンを購入する」等である。
- 母親は、「手洗い」「自分自身を清潔に保つ」「月経記録をつける」「食事」等に娘たちの行動の変化があると答えている。
- 多くの母親は、娘たちに生理用ナプキンを使い続けてもらいたいと思っている。その理由は、「便利で使いやすい」からである。
- 多くの母親が、「衛生」「栄養」「身を安全に守る」「生理用ナプキンの適切な捨て方」について、覚えているメッセージとしてあげている。

3-2 本事業における今後の課題

3-2-1 エリア拡大について

本プロジェクトの実施・アンケート結果により月経及び生理用品に対する正しい知識の定着とナプキン使用率の拡大の可能性が確認できたが、ミャンマー全土にこの月経教育活動を広げるスキームは事業終了時点で確立できていない。

3-2-2 生理用ナプキンの購買について

月経知識及び生理用品の正しい知識を習得し生理用ナプキンを使用する時に近くに購入する場がないことで、ナプキンを使用できない女子生徒が存在する。アンケート結果から未使用理由のトップとなっている。どのエリアに住む女子生徒もナプキンを購入できる場所の提供が必要である。

3-3 本事業の成果及びアクションプラン

本事業を通し、月経教育に参加した生徒、保護者、学校関係者からは「分かりやすい内容であった」「今後も続けて欲しい」という多くの称賛の声が聞かれ、月経教育教材がミャンマーにおいて文化的にも受け入れられ、女子生徒に分かりやすい教材内容を構築することができた。また、試供品の配布により、農村部ではまだ馴染みが少ない紙製の生理用ナプキンを手にとってもらったことにより、生理用ナプキンの活用についても興味をもってもらえた。

2017年1月には、ミャンマー国政府・保健省によって月経教育教材も承認を得ることができ、最終印刷データの譲渡を行った。その他、ミャンマーにおいて思春期保健を進める国際機関、国際NGOから具体的な活用の依頼もあり、ミャンマー全土に横断的な波及が広がっている。

各活動の実績及び成果の概略、今後のアクションプランは、下記に記す。各活動は、ほぼ計画に合わせ実施でき、本事業の目標を達成できたと評価する。

	活動	活動実績	成果（達成状況と評価）	アクションプラン
<第1段階>ミャンマー向け教材、地域限定利用版の作成				
活動1	ミャンマー向けドラフト案作成	◆保健副大臣、健康教育課長、学校保健課長、母子保健課長とキックオフ会合の実施。	◆関係者からドラフト案の助言を反映し、ミャンマー語版ドラフト案の完成。 ◆教材制作における保健省、公衆衛生局との協力体制が構築できた。 ◆関係者の協力により、プロジェクト対象タウンシップの選定に至った。	活動2へ
活動2	月経教育教材内容検討ワー	◆本事業チームと公衆衛生局がファシリテーションチームを組み、ミャンマー版の月経教育教材の内容を検	◆2015年10月21日実施、計46名（保健省公衆衛生局、教育省基礎教育局、対象地域の5つのタウ	活動3へ

	クシヨッ ブ開催	討するためのワークショップの企画・運営をした。		ンシップ等) が参加。ミャンマー版教材作成に向けたサンプル版の修正箇所の特定及び修正案出しを行った。	
活動 3	地域限定 利用版教材作成	◆コンテンツ検討ワークショップの成果を基にした地域限定利用版作成に向けた協議の実施。 ◆2つの村の学校でサンプル版プリントの実施。	達成	◆保健省公衆衛生局局長の承認を得て、2015年12月、地域限定利用版の完成。	活動4へ
<第2段階>地域限定利用版教材のテスト活用及び全国普及版制作					
活動 4	指導者向け月経教育教材活用研修	◆地域限定利用版の月経教育教材の現場活用に向けた指導者へのツール活用研修を、教育省学校保健課と協働で開催した。	達成	◆「教材を使用した授業の実施スキル」を各タウンシップが習得したことを確認できた。 ◆参加者たちの指導現場の声を聴きながら指導をすることで、今後の月経教育活動の参考となる意見を聞くことができた。 ◆教育省との連携に関し、教育省にもモニタリングに協力をしてもらうことの確認が取れた。 ◆月経教育ツールの内容を参加者と確認し、月経教育を限られた時間で効果的に行うための指導案を提案した。	活動5へ

<p>活動 5</p>	<p>タウンシ ップレベ ル月経教 育活動実 施</p>	<p>◆月経教育活動は5つのタウンシ ップから6校を選び、各校で約200名 前後の女子生徒とその保護者約100 名を対象とした。</p> <p>◆印刷・配布した教材及び生理用ナ プキンの試供品の数は、以下の通り である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域限定利用版女子生徒向け小冊 子 15,000部 ・地域限定利用版月経記録カレンダ ー 15,000部 ・地域限定利用版保護者向け三つ折 パンフレット 15,000部 ・地域限定利用版フリップチャート 20部 ・生理用ナプキン試供品(Sofy Eva 10 個入り) 6,580個 	<p>達成</p> <p>◆計30校の学校の5～9年生(10 ～16歳)の計10,692名(女子生 徒6,134名、保護者4,558名)に 向けて、月経教育活動を行った。</p> <p>◆月経教育に参加した生徒、保護 者、学校関係者からは、「分かり やすい内容であった」「今後も続 けて欲しい」という声がかかれ た。</p> <p>◆講師が自主的にネピドーの学 校に月経教育活動を実施すると いう活動も見られた。</p>	<p>活動6へ</p>
<p>活動 6</p>	<p>地域利用 版教材活 用フィー ドバック 収集</p>	<p>◆アンケート調査の実施</p> <p>【月経教育教材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この月経教育教材を気に入った： 92% <p>【生理に対する意識変化】</p> <p>月経教育実施前⇒月経教育実施3か 月後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理が怖い：50.8%⇒26.2% ・生理が恥ずかしい：65.7%⇒34.2% ・生理中は外出すべきではない： 49.5%⇒24.0% <p>【生理用ナプキンの知識・意識】</p> <p>月経教育実施前⇒月経教育実施3か 月後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理用ナプキンはトイレに捨てる べき：84.8%⇒25.6% ・生理用ナプキンを使いたい・使い 続けたい：55.0%⇒72.0% <p>【親の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月経セッションを好意的に思う： 85% ・自分の娘にとって重要だと思う： 	<p>達成</p> <p>◆アンケート結果から、月経教育 教材は多くの女子生徒に好まれ、 月経教育活動は、知識の向上・身 体の変化へのポジティブな理解 及び生理中も安心して学業に取 り組める基盤形成につながった ということが分かった。</p>	<p>活動7へ</p>

		85% ・今日の授業後、月経に関して娘の 為に何かしたいか：YES⇒83%		
活 動 7	教材修 正・全国普 及版制作	◆月経教育教材全国普及版の完成 し、最終版の印刷用データは、ミヤ ンマー国政府・保健省に譲渡した。 ①女子生徒向け小冊子「はじめてか らだナビ」（A5 サイズ、20 ページ、 フルカラー） ②保護者向け三つ折パンフレット （A4 サイズ三つ折、2 ページ、フル カラー） ③月経記録カレンダー（A5 サイズ 二つ折、2 ページ、フルカラー） ④大判ビニール製フリップチャート （A1 サイズ、10 枚、フルカラー）	達 成	◆2017年1月30、全4種類の教 材に公衆衛生局学校保健課課長 名の政府承認文書承諾を得た。 活動8へ
活 動 8	月経教育 ツール完 成発表会 開催	◆本事業の対象であった5つのタウ ンシップの成功事例と課題の共有及 びミャンマー全土での拡大を目的と して、成果共有会議開催を実施。 ◆2017年2月2日実施、計70名（公 衆衛生局長代行、保健省公衆衛生 局・教育省基礎教育局関係者、全17 州・地域の代表・5つの活動実施タウ ンシップ、INGO等）が参加。 ◆全州・地域代表より全国展開の強 い希望や国際NGO・国際機関から月 経教育活動の具体的な活用の依頼が あり、盛況な会議となった。	達 成	◆教材の普及、及び教育活動におい て、前項「3-2本事業における今後の 課題」にも記載の通り、エリアの拡大 が残課題であり、今後の活動の重点と なる。その対応策として、次期事業と して「Program for Improving Female Personal Hygiene through School Health Education among Young Girls in Myanmar」を2017年4月から開始す ることを決定。保健省、教育省、地方 自治体関係者等により構成されるコ アチームトレーナーにより教材普及、 月経教育活動を拡大させていく。（詳 細：第4章）
<全体>生理用ナプキンの普及活動				
全 体	生理用ナ プキンの 普及促進	◆タウンシップにおけるワークショ ップの開催時に試供品として、生理 用ナプキン試供品（Sofy Eva 10 個入 り）6,580 個を配付。 ◆2016年11月から学校（9校）を拠 点として生理用ナプキンのテスト販	達 成	◆アンケート結果から、生理用ナ プキンの使用に関して、「使いた い・使い続けたい」と回答した女 子生徒が、3ヵ月後に大きく増加 している。一方、生理用ナプキン を未使用理由の過半数以上が「近

	<p>売を開始し、新しいビジネスモデルを形成した。</p>	<p>所で売られていない」が理由であることが分かった。</p> <p>◆同じくアンケート結果から、生理用ナプキンの試供品を使用した女子生徒のうち9割が、試供品使用後に実際購入していることが明らかとなった。</p> <p>◆学校でのテスト販売では平均50~60個/月の売り上げ結果が出た。</p>	<p>る農村エリアにおける販売網拡充のため、2016年11月から学校を拠点として生理用ナプキンの販売をするという新しいビジネスモデルを形成した。引き続き継続して学校への購買環境作りの商談を行う。(詳細：第4章)</p>
--	-------------------------------	---	---

3-4 本事業の拡大プラン

本事業の実施・アンケート結果により月経及び生理用品に対する正しい知識の定着とナプキン使用率の拡大の可能性が確認できた。保健省公衆衛生局長代行である Dr. Than Win の「本事業は学校保健の国家プログラムを支援する大変重要な内容である。」コメントからも重要課題という認識はあるが、保健省及び教育省に、思春期保健教育に関するカリキュラムはまだ確立できていない。一方、ビジネス面では、本事業のアンケート結果から、生理用ナプキンを未使用理由の過半数以上が「近所で売られていない」が理由であることが分かった（図7参照）。

弊社及び現地法人である MYCARE Unicharm は、すでに現地に根付いたビジネスを展開しているが、更なる事業活性化に向けた本事業の拡大プランとして、開発事業及び新しいビジネスモデルを形成し、2017年4月に開始することを決定した。第一に、月経知識及び生理用品の正しい知識を習得する機会の提供拡大、弊社及び MYCARE Unicharm は次期事業として「Program for Improving Female Personal Hygiene through School Health Education among Young Girls in Myanmar」の事業を起ち上げ、引き続きジョイセフと事業実施を行うことを決めた。第二に、女子生徒が気軽に生理用ナプキンにアクセスできる農村エリアにおける販売網拡充である。2016年11月から学校を拠点として生理用ナプキンの販売を開始し、新しいビジネスモデルを形成した。これらの二つの開発及びビジネス課題の解決策の詳細は第4章に記す。

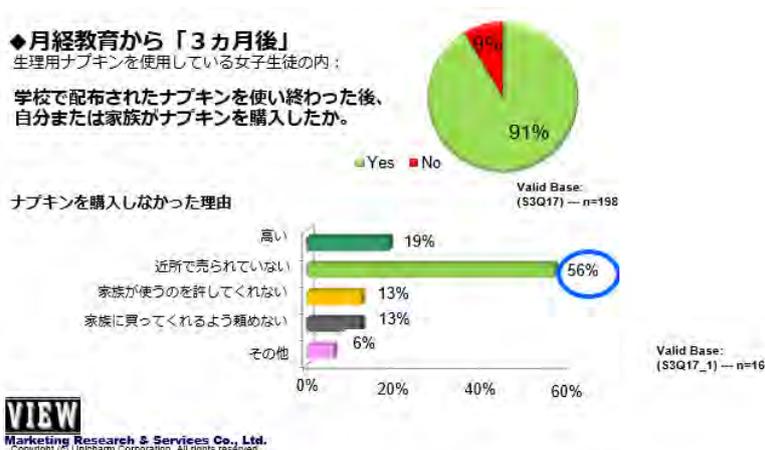


図 7 月経教育の後 生理用ナプキン未購入理由

第4章 開発課題解決の拡充に向けた今後の展望

4-1 次期事業の概要

4-1-1 次期事業の概要

弊社は、ジョイセフと協働で本事業を全国に普及させるために、後継事業として「Program for Improving Female Personal Hygiene through School Health Education among Young Girls in Myanmar」を開始する。次期事業は、2017年4月～2018年3月の計12ヵ月間で、全3地域の15タウンシップから計300校を対象にする。

ミャンマー国政府・保健省の学校保健課と健康教育課との協力の

下、次期事業を展開していく。まず、将来的に政府主導で月経教育活動を展開・拡大していく基盤を作るため、保健省（母子保健課、学校保健課、健康教育課）と教育省（基礎教育課）のメンバーで構成されたコアチームトレーナーの立ち上げ、また、地域教育オフィサー、地域アドバイザーのメンバーで構成された34名の月経教育に関する講師の育成をする。本チームは、次期事業の中心メンバーになるだけでなく、各地域の指導者向けツールの活用研修における講師及びファシリテーターとなる。次に、タウンシップレベルで活動する学校保健医務官、タウンシップ保健看護師、公衆衛生分野の保健教育に従事している保健アシスタントがタウンシップレベル月経教育活動の中心的な実施者となるため、指導者向けツールの活用研修を各対象地域で行う。次期事業の対象地域の5つのタウンシップから20校を選び、各校で約200名の女子生徒とその保護者約100名に対してタウンシップレベル月経教育活動を実施する。女子生徒には、①小冊子、②月経記録カード、③生理用ナプキン「Sofy Eva」の試用品（10個入り1パック）の3点を配布する。保護者には①保護者用三つ折パンフレットを配布する。月経教育活動中は、フリップチャートも活用し、理解の向上を促す。次期事業では、ミャンマーの若年層の女性が、月経教育を通じ、思春期における身体の成長に関する正しい知識を身に着けることを目指す。

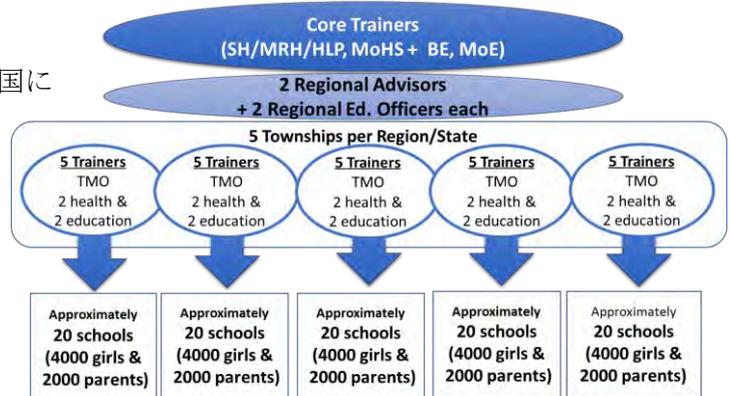


図8 次期事業イメージ図

4-1-2 次期事業に係る具体的計画

次期事業の概要は下記の通りである。

期間	2017年4月～2018年3月（12ヵ月間）
対象地域	<p>計300校（3地域、15タウンシップ）</p> <p>3地域×5タウンシップ×20校＝300校</p> <p>1）エヤワディ地域 （①Kyaunggon、②Pantanaw、③Nyung Don、④Kyon Pyaw、⑤Wakema）</p> <p>2）バゴー地域 （①Nattaline、②Byobingauk、③Ohkpo、④Tegon、⑤Paukkaung）</p>

	3) ネピドー (①Zabuthiri、②Pokpathiri、③Laewai、④Tatkone、⑤Pyinmana)
受益者数	計 90,000 人 女子生徒 200 人×300 校=60,000 人 保護者 100 人×300 校=30,000
事業目標	【目標①】 ミャンマーの若年層の女性が、月経教育を通じ、思春期における身体の成長に関する正しい知識を身に着け、正しい使用方法で活用できる 【目標②】 国家学校保健戦略（2017-2021）を通じ、学校保健課と協働で女子生徒に向けた月経教育の拡大に貢献する
成果	【成果①】 女子生徒への月経教育を通じ、思春期における身体の成長に関する知識が向上する 【成果②】 学校保健分野における指導者に対する月経教育に関する能力強化を図る
活動	【活動①】 中央政府及び全州・地域のコアトレーナーの能力強化を図るため、月経教育に関するコアチーム及び地域アドバイザー会議を実施する 【活動②】 対象となる全 3 地域において、タウンシップレベルの指導者へ向けた月経教育指導法についての研修を実施する 【活動③】 対象となる 3 地域のタウンシップレベルで、5~9 年生を対象とし、月経教育活動の実施を支援する 【活動④】 定期モニタリング及び月経教材の活用の監督指導、フィードバック収集

4-1-3 実施体制

次期事業は、弊社及び MYCARE Unicharm が事業資金を提供し、ジョイセフが保健省及び教育省をカウンターパートとして、月経教育に関する講師の能力強化と国家学校保健戦略（2017～2021）に即しタウンシップレベルで 5～9 年生に対して、月経教育活動を実施していく。

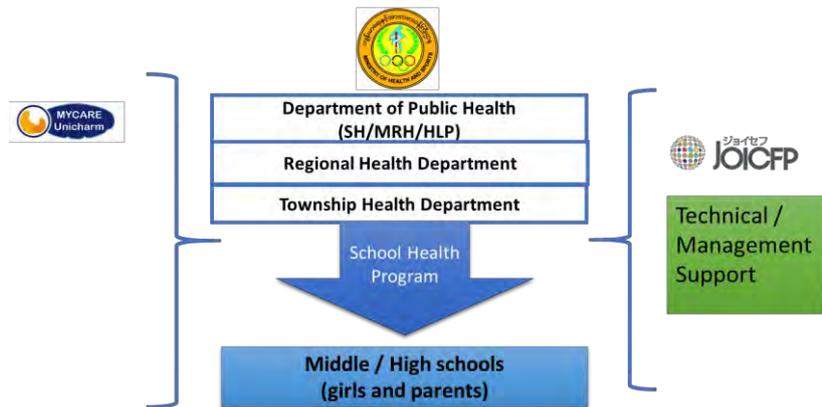


図 9 次期事業体制図

4-2 今後のビジネス展開

4-2-1 現在のミャンマー生理用ナプキン市場の分析及び弊社の位置づけ

ミャンマーは、生理用ナプキンの市場成長率が、アジアの中で最も高いエリアである。また、生理用ナプキンの使用率は、2016年時点で43%と東南アジア諸国連合の中で最も低く生理用ナプキンの使用率拡大と経済成長によるピース単価の拡大の可能性がある。このミャンマーの生理用ナプキン市場において、2016年時点でMYCARE Unicharmは約60%の圧倒的なシェアを有しており、生理用ナプキン普及加速による恩恵を最も享受できる市場地位を獲得している。特にポテンシャルが大きいのが、人口の7割弱を占める農村部である。ミャンマーの2大都市では、生理用ナプキンの使用率は2016年時点で88%まで拡大しているが、農村部ではまだ32%にとどまる。農村部における月経教育で、生理用ナプキンを普及させることができれば市場成長が早められる。

また、ミャンマー全土に商品を配荷できる代理店は2社ある。MYCARE Unicharmは両社と独占契約をしているため、欧米を中心とした競合メーカーが参入し、一気に取り扱い小売店を広げることは困難な状況にある。結果として、現在、生理用ナプキンの加重配荷店率は、本事業で普及商材であるSofy Evaがシェア98%を占める。続いて、Flora43%、Blue38%、She38%、Whisper12%となっており、2位以下のメーカーと著しい格差がある。

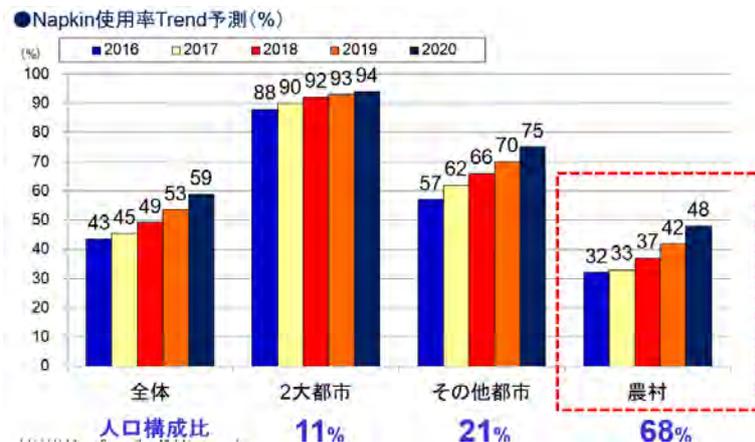


図 10 生理用ナプキン使用率の予測

4-2-2 地方エリアにおける生理用ナプキン購買環境の整備と拡大

本事業で行った女子生徒及び保護者へのアンケートを通して、対象地域では女子生徒が生理用ナプキンを使用したくても購入できないことが分かった。背景には、ミャンマーは周辺国と比較して人口あたりの小売業が少なく、村にある販売店や雑貨店がない、もしくは少ない、また小規模であり衛生材料の流通が行きわたっていない等のような販売網に関する現状が明らかとなった。ミャンマーの地方エリアでは同様の課題がある。そのため、学校は地方エリアにも一定地域内に存在すること、女子生徒が毎日通学するというアクセスの良さから学校を販売拠点とするビジネスモデルを形成した。本ビジネスモデルでは、本事業の普及商材であった「Sofy Eva」を平均700Kyat（約58.28円、JICA外貨換算レート表2017年5月参照）の市場価格よりも低価格である600Kyat（約49.96円）で販売をする。

2016年11月より、本事業で月経教育活動を行ったエヤワディ州の学校で、生理用ナプキンの購買環境の整備を目的としたテスト販売を開始した。現在は、計9校で販売を行い、多くの学校では物品販売が行われていないため、校長室や職員室で販売をすることで教員が責任を持って金銭の管理をしている。現在の販売実績は、平均約50～60個/月である。

2017年4月からは、ジョイセフが月経教育活動の事業を展開する。追行して、MYCARE Unicharmが、次期事業の対象校に、女子生徒が必要な時に生理用ナプキンが購入できる環境作りが重要であることを学校に説明をし、学校内に生理用ナプキンの商品とディスプレイの設置の

販売商談を行う。購入を希望する女子生徒がアクセスできる販売網の拡充を目指す。将来的に、商材にベルマークのような社会貢献活動に付与できるポイント制度を取り入れ、ポイントを収集によりノートやトイレの汚物入れ等のような教育・衛生環境の向上に寄与できる仕組み導入を検討している。



図 11 生理用ナプキン 学校購買・社会貢献ビジネスモデル、イメージ図

4-2-3 今後の展望

本ビジネスモデルは、まず、女子生徒及び保護者に向け月経教育活動を実施する。追行して、女子生徒が生理用ナプキンを購入しやすい販売網の導入及び学校での購入という習慣を築き、女性にとって生活をしやすい環境を提供し、女性が輝く社会の活力の一助となる。このように、女子生徒が身体の成長と生殖の知識の向上、月経時の衛生的な処理によ



写真 20 学校販売

り SDGs の目標 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に貢献ができ、また、月経時の身体・心理面からの行動制限の削減は社会進出の機会につながり、目標 5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」の 2 つの目標に対し、横断的にアプローチをすることが可能である。本ビジネスモデルの検証では、保健省及び教育省の理解と連携強化が重要となることも分かり、JICA 事業を通して、グローバルパートナーシップの活性化の強化を推進していきたい。

一方、MYCARE Unicharm として 2016 年実績に対し 2020 年に約 2 倍の成長を目指す。下記の三つの施策を推進予定である。第一に、月経教育活動を推進し月経知識と生理用ナプキンの正しい知識を浸透させることで農村エリアを中心に生理用ナプキンの利用率と使用枚数を拡大させミャンマーにおける生理用ナプキン数量市場を確実に拡大させることである。第二に、物価上昇とマーケティング活動により夜用やクールタイプのような高機能でピース単価の高い商品の構成比を拡大することで市場自体のピース単価を上昇させることである。第三として、魅力的な商品を継続して提案しミャンマー国内におけるシェアを拡大することである。

4-3 開発課題解決の拡充に向けた活動に関する課題とその対応策

1) 月経教育活動が継続的に実施されるための仕組みの構築

ミャンマー国政府も思春期保健への取り組みを重要視しているが、10 代前半の女子生徒を対象とした思春期教育のカリキュラムが存在していない。そのため、政府が主体となって月経教育が行えるよう、本事業の立ち上げ当初より保健省及び教育省関係者に協議や報告を行ってきた。次期事業では、保健省（母子保健課、学校保健課、健康教育課）と教育省（基礎教育課）のメンバーで構成されたコアチームトレーナーの発足を行い、国家学校保健戦略（2017-2021）にそった月経教育活動の拡大に貢献する中心メンバーとなる。また、毎年ミャンマーの学校で実施されている健康診断のカリキュラムに組み込み、継続的に実施される仕組みの構築を行う。

2) 女子生徒が生理用ナプキンに気軽にアクセスできる環境作りのため学校販売ビジネスモデルの強化

地方エリアの村に販売店や雑貨店が少ないこと、また小規模であり衛生材料の流通が行きわたっていないため、農村地域で女子生徒が生理用ナプキンを購入することができない。現在は、MYCARE Unicharm が月経教育活動を実施した学校に個別商談を行い販売の学校数を増やしているが、ミャンマーの全校にアプローチは不可能である。そのため、次期事業の月経教育活動を通し、女子生徒が月経に関する正しい知識を学ぶことによって月経が理由で女子生徒が学校を休む割合が減るといふ定量データ及び行動の変化における定性データを収集し、分析を行い、生理用ナプキンの普及に伴う開発効果を教育省にも示していきたい。教育省から生理用ナプキンを学校販売が可能となる正式な承認を受けることを目指し、販売網を拡充していきたい。また、JICA 技術協力プロジェクト「ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト」とも連携を図っていきたい。

3) 少数民族や遠隔地域への拡大

1) の解決策として、保健省及び教育省の中にコアチームトレーナーを立ち上げ、行政主体で月経教育活動に貢献する基盤を作り上げる。また、2) の解決策として、学校販売ビジネスモデルの強化を行い、農村地域でも女子生徒が生理用ナプキンを気軽に購入できる環境作りを整備する、二

つのアプローチにより、長期的にミャンマー全土へ波及することを期待している。本事業を通して、ミャンマーで保健分野の活動を展開している国連人口基金や国際 NGO の Population Service International (PSI)からも月経教育教材に関する具体的な活用の依頼を受けており、横断的な連携を進めていく。

以上